

福祉サービス第三者評価 評価結果

対象事業所:横浜市並木保育園
事業者:横浜市

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2~3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4 ページ
分類・項目別評価結果	5~12 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	13~19 ページ
利用者本人調査分析	20 ページ
事業者意見	22 ページ

平成 18 年 4 月 18 日 公表

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	横浜市並木保育園	
報告書作成日	2006年3月19日	評価に要した期間 約3ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:05年10月31日～05年12月26日</p>	<p>職員会議で趣旨説明し、第三者評価プロジェクトチーム(園長・主任・リーダー・担任代表)で事前学習した。</p> <p>プロジェクトメンバーが中心となって、職員全体で会議の時間とは別に、保育の仕事終了後の時間を使ってグループに分かれて学習したあと、職員各個人が自己評価した。</p> <p>各個人が記入したものをもとに、クラスごとの会議を開き、意見交換しながら1項目ずつ確認・合意した。</p> <p>それを持ち寄ってプロジェクトのメンバーと園長が協議し合意してまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:05年11月28日～05年12月16日</p>	<p>全利用者の保護者99人に対して事業者側から配付。(手渡し、または個人ポストに入れて)</p> <p>同封の返送用封筒にて、評価機関宛匿名で返送。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 06年1月30日 第2日 06年1月31日</p>	<p>第1日は、午前中、各クラスの観察調査。昼食は各クラスで。午後は、書類調査と5歳児への聞き取り調査、その後、園長・主任に事業者面接調査。</p> <p>第2日は、午前中、保育観察および書類調査。午後は各クラスのリーダー保育士と調理員への面接調査。その後、園長・主任への事業者面接調査、および意見交換で終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 06年1月30日</p>	<p>5歳児19人(当日登園児全員)を4グループに分け、各グループ約15分間、ホールで実施。先生は同席せず。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

横浜市並木保育園は、1978年8月に横浜市によって開設されました。定員は120名です。保育園は住宅団地金沢シーサイドタウン内に、緑地、公園、公共施設にも近接する、落ち着いた環境の中に位置しています。園舎は鉄筋コンクリート2階建てで、園舎、園庭は全て南に面しており、明るく広い大型園です。

高く評価できる点

1. 元気一杯、心身ともに健やかに育まれる子どもたち

当園の保育目標「心身ともに健やかに過ごす、友だちとたくさん遊ぶ、意欲的に活動する」のもと、子どもたちは、園舎の中では絵本、カルタ、ブロック、お絵かき、おままごとなどで、そして広い園庭においては、ドッチボール、ボール蹴り、追いかっこ、砂場遊び、鉄棒、三輪車遊びなどで思い思いに楽しんでいます。小さなもめごとにも経験しながら、みんな仲良くたくましく、元気一杯園生活を楽しんでいます。

幼児クラスの子どもたちは、朝の自由時間、クラスのどこへ行ってもよい時間帯、クラスの間を自由に行き来（異年齢児交流）しています。年下の子への慈しみ、上の子への憧れが自然に育まれているように見受けられます。年長児は毎朝ふたり一組交替で、各クラスの出席人数調べを担当しています。これらをはじめとする活動を通して、5歳児クラスの子どもたちに、年長児としての自覚が育っているように見受けられます。新しい年度が近づくと、子どもたちは、今度は自分たちが一つ上のクラスを担うんだ、との気持ちが自然とできてくるようです。子どもたちは成長の中で、毎日の活動を通して、このような並木保育園の雰囲気・環境を育み、引き継いでいるように見受けられます。

保護者は、運動会やお楽しみ会などの行事を通して、このようなわが子の確実な成長に感動し、その様子が行事の実施後に行ったアンケートのコメントから伺えます。それらは、園長の強いリーダーシップ、主任保育士の支援のもとに形作られている保育士と福祉員（朝夕の時間外保育と延長保育を担当している嘱託職員）の協力・連携に、支えられているものと思われれます。

2. 園内研修による人材育成、技術の向上への取組み

人材育成については、横浜市主催による研修会への積極的参加、金沢区の園長会主催による研修会や南部地域療育センターにおける実地研修への参加など、外部研修には積極的に参加し取り組んでいます。

このような外部研修への積極参加とともに、当保育園では「横浜市人材育成ビジョン」の考え方に基づき、職員のスキル向上、モチベーションの維持を目的とした園内研修を意欲的に実施しています。

今年度は、3つのグループによる課題研究（幼児向け食育のあり方、乳児向け食育のあり方、おもちゃ遊び）に取り組んでいます。年度末には、園内において研究成果の発表会を行い、職員全体で保育の質の一層の向上を図ろうと努めています。更に、乳児クラスにおいては実地保育の相互研修（保育士の保育技術をお互いに披露しあう）を行っています。また、日常の保育を他のクラスの保育士が観察して、職員会議で自由に意見交換し合うことも行っています。更には、毎月開催の福祉員会議においても、毎年テーマを設定して研修を行っています。

これらの園内研修は、職員の保育技術向上に資するとともに、モチベーションの維持、更には職員間の連携・連帯にも貢献しているものと思われれます。

改善や工夫が望まれる点

1、より保護者と共感し合える関係づくりに向けて

当保育園は、「子ども、保護者、保育者が共感し合い、共に育ちあい、成長を喜び合える関係を作る」を保育の基本方針の一つとして掲げており、「子どもの保育に、親をどれだけ巻き込めるか」を今後の課題として位置づけ鋭意取り組まれています。

各クラスには「今月の（保育の）ねらい」を掲げ、保護者の理解と協力を求めています。園は、登降園時の挨拶には“プラス一声”を心掛ける、園長は可能な限り朝の時間にクラス或いは園庭において保護者との会話を持つ、保育士の早番・遅番制度による保護者との接触機会の確保、などに力を入れて取り組んでいます。

しかし、行事後に実施のアンケートの回収率（運動会 48%、お楽しみ会 35%）、更に第三者評価事業における利用者家族アンケートの回収率（32.3%）を眺めてみますと、保護者の保育園への巻き込みや保護者と保育に共感し合うという点では、更に工夫が必要ではないかと思われれます。また、利用者家族アンケートの設問項目“保育目標や保育方針”では、保護者の関心は大変低い状態にあります。設問項目“送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明”、“不満や要望を気軽に言える”については、満足していないという回答が少なくありません。

保育園は、高い保育の理念・目標を掲げてまい進し、職員は鋭意努力を重ねておられます。保護者は保育園生活を通してわが子の成長に感動するなど、保育園に大きな信頼を寄せていますが、園の目標や保育方針に関心を持ち、子どものよりよい育ちのために共に手を取り合うという状況には、まだ至っていないように見受けられます。

保育園はいつも保護者と共に歩み、子どもを育てているということへの理解の醸成、職員の努力が素直に保護者へ伝わりやすい方法や手段、保護者がいつでも職員に気安く話しかけられる雰囲気作りなどについて更に検討され、「保護者と共感し合い、共に育ちあい、成長を喜び合える関係」が、自然な形で築かれるよう望まれます。

当評価機関では、「障害」を「障がい」と表記します。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権への配慮

- ◇ 園の保育目標に心身ともに健やかに過ごすことを掲げ、児童憲章を常に目にする場所に掲げ、子ども一人ひとりを受け止め、個々に応じた働きかけ・援助を大切にしています。子どもと接するときには目線を合わせ、個人差を踏まえ、気持ちや発言を受け入れるよう心がけています。
- ◇ 虐待については職員間で予防と援助について話し合い、兆候の感知と早期対応に心がけています。

2、利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援

- ◇ 児童福祉法、保育指針に基づいた「よこはまの保育」(横浜市が提示している保育の保育基準)をもとに、保育理念、基本方針を定め実施しています。特に、「よこはまの保育」は全職員が持ち、読み合わせをして共通理解し、意欲的に活動することを保育目的としてとりあげ、子どもが創意工夫して遊べる環境づくりに努め、自分で考えて行動できる基礎を培う保育に努めています。
- ◇ 2歳児までは個別指導計画を作成し、幼児クラスについては、クラス毎の指導計画に個別配慮の欄を設け気になる子の様子や特記事項を記録するほか、職員会議では担任以外の職員からも気づいたことを情報交換し、きめ細かな保育を行っています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 経験豊かな保育士と福祉員が相互に声を掛け合いながら、情報を共有し安定した保育を提供しています。横浜市の特徴である時間外の福祉員制度は、昼間の保育を行う保育士が保護者と接する機会が少ない為、一人ずつですが早番・遅番をつくり職員が保護者と接するよう試みています。
- ◇ 各種マニュアル等は公立のため、市から配布された物を含め用意されています。園独自の作業手順等は第三者評価受審を機に、慣習的になっているところのマニュアル化やファイリングシステムの見直し・整備が進められています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 地域ケアプラザに通うお年寄りとの定期的な交流、小学校の中にあるコミュニティスペースでのお茶教室への参加など、近隣に多くの施設があるという恵まれた立地条件を活かして地域との交流を行い、子ども達の豊かな育ちに活かしています。
- ◇ 道路を隔てて建つ小学校との交流の機会を多く設け、避難訓練に参加したりドッチボールの指導を受けたり、更に区内外の中学生の体験実習やボランティアを積極的に受け入れる体制があり、子どもにとっての地域生活の充実を図っています。
- ◇ 園庭開放や交流保育では、職員だけでなく民生委員の協力も得て、地域の子育て支援に寄与しています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 毎月の区の園長会で取り上げられた課題は、職員会議で報告し、職員で取り組むべき事については協議し、必要に応じプロジェクトチームを作り対応しています。
- ◇ 重要な意志決定については、園長が保護者会の役員会及び総会に出席し、説明し理解を求め、行事毎に保護者アンケートをとり、保護者の意向を受け止めるようにしていますが、アンケートの回収率が低いなど、園として、子どもの保育に今後保護者をどれだけ巻き込めるかを課題としてあげています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 横浜市の行う人事考課制度に基づき、目標を掲げての仕事への取り組みがあります。また、横浜市や金沢区園長会主催の研修会、地域療育センターや白峰学園保育センターなどの外部研修に積極的に参加させる他、園内研修も計画的に行っています。
- ◇ 研修以外でも互いの保育を観察し、学び合う機会を設けるなど資質向上に意欲的に取り組んでいます。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/fukushi/hyouka/index.html#qg> を参照してください。









「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある



評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。






評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・「よこはまの保育」(横浜市が提示している保育の保育基準)をもとに定められている保育の理念や基本方針は、利用者本人を尊重したものになっており、毎年定期的(1月から開催の新年度会議)な見直しを通して、全職員に理解され実践されています。 ・保育計画は保育の基本方針に基づき、保護者の実状や地域環境なども考慮して作成されています。年度当初の保護者懇談会において説明し、保護者の理解が得られるように努めています。 ・保育計画の作成に際して、意思表示の困難な子どもに対しては、子どもに寄り添い共感することによる意見や意思の汲み取り、また、0歳児に対してはベビーサインの手法による意思の汲み取りを行って、保育計画に反映させています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会においては、担任予定の保育士による面談を行い、入園後の生活がスムーズに行われるように配慮しています。同時に「児童票」「事前打合せ票」により、保育園として必要な情報を把握しています。 ・入園の当日は、「入園を祝う会」の終了後に保護者が園児と共に、午前中、各クラスで過ごせる時間を設けています。この間に、園生活についての必要事項を保護者へ伝え、家庭での様子を聞き取っています。 ・個別指導計画の作成・評価・見直しは保育会議において、適宜実施しています。指導計画の内容を保護者へ伝え、理解を得るために、各クラス毎に「月のねらい」としてまとめ、掲出しています。
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎・園庭は全て南に面しており、車道を挟んで小学校の校舎となっています。太陽の恵みを常に享受できる、自然環境に大変恵まれている施設と言えます。園舎は、築27年余を経過していますが、子どもたちが快適に過ごせるように種々の配慮がなされています。但し、1階のトイレは、換気が難しいようであり、臭いがこもっていました。 ・沐浴設備、シャワー設備は衛生管理マニュアルに基づき管理され清掃が行われています。 ・乳児クラスでは手作りの間仕切りを利用して小集団保育に適した空間を確



	<p>保しています。幼児クラスでは間仕切り板やコーナーを設けることにより機能別空間を確保しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋内における異年齢児間交流の場として、朝のクラス間を横断する自由遊び、週1回のリズム遊びを設けています。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに伴って、2歳児までは個別指導計画を作成しています。3歳児以上の幼児において、特別に配慮を要する場合は、指導計画の中で“個別配慮の取扱い”で対応しています。 ・ 子ども一人ひとりの発達の段階に応じた記録として、児童票及び経過記録を整備保管しています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に配慮を要する子どもについては、保育会議において問題解決の手段も含めて話し合っています。また、乳児会議、幼児会議においては、個々の子どもの状況について情報交換を行っています。 ・ 障がい児保育については南部地域療育センターの巡回指導を受け、環境整備、保育内容の配慮に努めています。 ・ アレルギー疾患のある子どもへは、横浜市医師会保育部会の指導協力により作成された「アレルギー疾患の子どもへの対応マニュアル」に基づいて適切に対応しています。なお、一部の代替食については、まだ対応できない状況にあります。 ・ 外国籍の子どもに対しては、比較的多くの実績もあり、子どもたち同士の理解も進んでいて、適切な対応がなされています。
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者がサービスや苦情を訴えやすい仕組みとして、第三者委員を紹介する、意見・要望受付箱を1階と2階に設けるなどのほか、行事の後にはアンケートを実施する、朝の登園時に園長が園庭やクラスを回って保護者との話し合いの機会をつくる、保育士は日常の挨拶に“プラス一声かける”に心がける、など保護者の意向が伝えやすいように努めています。 ・ 要望や苦情等があった場合には、速やかに対応しています。その内容は職員会議で報告し、職員全体の問題として受け止め記録され、今後活かされています。

評価領域 サービスの実施内容




評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児クラスでは手作りの仕切りによるスペースを、子どもの1日の動きに合わせて柔軟に変化させています。手作り遊具を活用して、子どもの遊びの要求を満たすと共に運動の力を伸ばすなど、子どもが主体的に、そして成長に合わせて遊べるように環境づくりに努めています。 ・ 一斉活動は、子どもの自由な発想や意見を取り入れ、そのとき人気のある遊びの中から題材を決めるなど、興味を持って生き生きと遊べるように工夫しています。 ・ 自由に過ごせる時間を設定する、また、描画材、おもちゃ、図鑑、オルガンなどを自由に楽しめるコーナーをつくるなど、一人ひとりが興味や関心を持った遊びが出来るように配慮しています。 ・ 子どもの目の位置にある熱帯魚の飼育や、オクラの栽培、更には様々な施設や公園に恵まれた近隣の散歩は、自然に触れたり、社会にかかわる良い機会となっています。 ・ 子どもが作った作品は、その雰囲気を活かし自分のマークをつけて展示されています。また子どもの要望に応じて音楽を流し、お面やぼんぼんを使って楽しく体を動かすなど、表現することの喜びを感じるように支援しています。 ・ 子どもたちは年齢を越えて、散歩や会食、または園庭で一緒に遊ぶことにより、年少児の世話をしたり、年長児を見習って学ぶなど社会性を身につけているようです。 ・ 心身の健康作りのために、園庭や散歩での野外活動を積極的に実施する他、週1回のリズム運動を取り入れています。
<p>- 1 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園全体で食育に取り組み、紙で人形や食材をつくり食品分類のパネルに貼り付けるなど、楽しみながら食への関心を高めるよう努めています。また、栽培したものを給食に取り入れたり、野菜の皮むきのお手伝いをするなど、食の過程にも興味を持つようにしています。 ・ 食事の時には、保育士も子どもたちも当番として、エプロンや白衣を着て配膳しています。また、テーブルに花を飾りBGMを流すなど雰囲気を大切にしています。調理員が子どもたちへ美味しく食したと「べろり賞」を贈る、また、子どもたちは感謝の気持ちを込めて調理員へ「料理賞」を贈るなどの交流があり、子どもの自ら食べようとする意欲や行動を大切にしています。 ・ 保護者に試食の機会はありませんが、サンプル掲示やレシピの提供を行い、園だよりでは食育について伝え、家庭での食生活の参考にしてもらえるように努力しています。 ・ 午睡や排泄は、一人ひとりの状況に応じて、成長に合わせた対応を行っています。

<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの健康状態を把握し、家庭と連絡をとりながら健康管理を行っています。 健康診断等は嘱託医と連携をはかり、保護者にも連絡し、情報を提供しています。 感染症については、保護者にも保健だよりなどで情報を提供し、広がり予防しています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理については横浜市作成のマニュアルに従い、職員全員が知識を共有し実践に活かしています。 マニュアルに基づき、定期的な害虫駆除、砂場・遊具の管理や個別のタオル使用などの具体策が講じられています。衛生管理マニュアルは、関連する事柄が日々変化していますので、定期的な見直しに努めて頂きたいと思いません。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルに沿って事故や災害に備えた安全管理が推進されています。 保護者や関連機関との連絡体制があり、小さな事故も記録に残し、再発の防止に役立っています。 外部からの侵入に対して登降園時間以外は保育室の出入り口を施錠しています。不審者情報は幼保小で連絡し合える関係がありますが、昨今の状況を考えた場合、さらに近隣住民との連携も進めていくことが望まれます。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの人格尊重を意識し、呼び捨てや威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう職員間で確認合っています。 いけないことをした時には、子どもの目線にあわせ個別に話し、良いことをした時には褒めて自信を持たせるようにして、人格や自尊心を傷つけないように配慮しています。 仕切りや備品の配置を工夫し、収納場所の下段を開けておくなど、子どもが安心して一人や小集団で遊べる場所が確保できるように配慮しています。 個人情報の取り扱いや守秘義務については全職員が理解しています。 虐待を疑われる子どもの早期発見や、気づいた場合の配慮など、適切な対応を職員全体で話し合っています。
<p>- 4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が保育方針を理解できるよう、懇談会や行事の際に話したり、園だよりで取り上げて伝えています。 送迎時、挨拶にはプラス一声を心がけ、連絡帳だけでなく、特に伝えたいことは職員が早番・遅番の時を利用したり、時間外も残り保護者に伝えるよう努力していますが、さらに保護者が園から伝わる情報に満足しているかなど、保護者の意向をつかむ工夫が望まれます。 日常の保育や保護者が参加しない行事の様子をデジカメで記録して、送迎時に子どもたちの様子をタイムリーに伝えています。 年間行事はあらかじめ伝えています。保育参加は随時呼びかけていますが、今年度は、特に乳児クラスに積極的な参加を呼びかけ、ほぼ全員の保護者が参加しました。 保育参観・懇談会に出席できなかった保護者に対しては、記録や資料等で伝えるほか口頭でも説明しています。




評価領域 地域支援機能




評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子育て支援ニーズを、並木地区子育てエンジョイ委員会への出席、民生児童委員や主任児童委員との情報交換、区で実施の0歳児保護者に対するアンケート、などを通して把握しています。 ・ 区内の市立保育園との合同地域育児支援会議を毎月開催し、地域における子育て支援について話し合っています。 ・ 保育園の専門性を活かして、園庭開放(毎日)、交流保育(年7回)、一時保育(緊急一時保育)、育児講座(年3回)、夏季のプール開放などを行っています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民への園からのお知らせや地域向け情報の提供は、保育園の掲示板の他、町内会の掲示板を利用して、更には、地域ケアプラザ、地区センターを介して行っています。 ・ 育児相談は、毎週水曜日と定めています。前年度実績では12件の相談を受けています。なお、園庭開放の際に、保護者より種々の相談を受ける状況にあります。 ・ 相談内容に応じて、区の福祉保健センターサービス課と連携し、情報交換が出来る体制となっています。

評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園に対する理解促進の施策として、富岡並木地域ケアプラザにおけるお年寄り(デイサービス)との交流、並木第一小学校の中にあるコミュニティスペースで開かれたお茶会への参加などの他、散歩の時には地域の人々との間で交わす挨拶などの声かけ、などがあげられます。 ・ 地域への施設開放として、保育園のホールを、子育てグループリーダーの会合場所として2か月に1度の頻度で提供しています。 ・ 地域との交流に関しては、並木第一小学校との交流があげられます。運動会や「並一博(文化祭)」の見学、また作品展示会への出展参加、避難訓練への参加、卒園式に小学校5年生が出席してお祝いの言葉を述べるなどがあります。 ・ 当保育園は、幼保小教育連携事業において、今年度よりモデル園として研究活動を行っており、幼保小間で相互に授業参加、施設案内、行事参加などによる交流を行っています。 ・ 運動会、お楽しみ会、入園を祝う会、卒園式などの園の行事には町内会の代表を、また、人形劇では知的障がい者施設の児童を招待するなど、地域コミュニティへの働きかけに努めています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供するために、パンフレット「並木保育園」を準備するとともに、横浜市のホームページにより、並木保育園に関する情報を提供しています。 ・ 外部の情報提供媒体としては、金沢区社会福祉協議会からの取材要請があり、育児支援の情報を提供しています。 ・ 利用希望者の問い合わせや見学に、速やかに対応できるように、資料が整備されています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア受け入れのマニュアルに基づき、オリエンテーションを行い、また、クラスノートにより保護者へも知らせています。 ・ ボランティア受け入れに関しては、福祉教育実践の考えの下に設けられた「施設連絡会」(学校と福祉施設で構成、主催は地域ケアプラザ)に参加して取り組んでいます。 ・ 実習生受け入れについては、保育学生用と看護学生用の2種類のマニュアルを備えて対応しています。保護者へは、園だよりやクラスノートでもって連絡し、理解を求めています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の理念や方針に適合した人材を育成するため、横浜市や金沢区が開催する研修会には積極的に参加すると併行して、「横浜市人材育成ビジョン」に沿った当園独自の園内研修を計画し推進しています。 ・ 今年度は、全職員で3つの研究グループ(幼児向け食育のあり方、乳児向け食育のあり方、おもちゃ遊び)を立ち上げて、取り組んでいます。年度末にはその成果を発表しあう予定になっています。また、乳児クラスにおいては、毎月1回、職員が順番に保育の実践面を教えあう相互研修を行っています。 ・ アルバイト職員は、金沢区園長会主催の研修会に、自主的に参加して学習しています。 ・ 個々の職員の資質向上に向けた目標設定・達成度評価については、市制定の人事考課制度の中で、年度当初の目標設定、及び年度末の振り返りにおける、園長と職員との面談を通して行っています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員のスキルの段階にあわせた技術の向上への取り組みについては、年度末における職員個々の反省と、次年度への改善策と結びつけることにより行っています。 ・ 同時に、人事考課の中における年度当初の目標設定、年度末の振り返り・自己評価を通しても行っています。園長は、目標設定と振り返りに際して、職員と面談し指導・相談を行っています。 ・ 一層の技術の向上を目指した会議として、1月より月2回の頻度で新年度会議を開催し、新しい年度へ向けて改善点などを検討しています。 ・ 今後は、外部から、保育の技術の評価・指導を受ける仕組みを検討されることが望まれます。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長は、本人の適性・経験・能力に応じた役割を与えるため、年度当初に保育園運営の職員体制を提示するとともに、個人別目標設定などを行っています。 ・ やりがいや満足度を高めるために、プロジェクト方式による業務推進を取り入れています。更に、園長は、年度末の個別面談において、仕事の希望と共に、業務改善への意見や要望などを聞いて職員のモチベーション維持に努めています。

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育に携わる者として守るべき、法・規範・倫理等は、横浜市職員倫理規定、「横浜市アルバイト就業要綱」により周知され実行されています。また、全国保育士倫理綱領を職員で読み合わせ、事例検討による学習を行っています。 ・ ゴミ減量化・リサイクルなどの環境への取り組みとして、食品トレー回収場所の設置、グリーン購入、牛乳パックの保育への利用、子どもも分別しやすいように色別ゴミ箱の設置などを進めています。更に、こまめに電気を消すなど省エネルギーの促進にも努めています。また、G30の取り組みとして、運動会において親子競技にゴミの分別競争を取り入れました。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育理念や基本方針等については、園内に掲出されており、また、年に一度の討議・見直しを通して職員に周知されています。また、園長は定期的に理解の状況について確認しています。 ・ 重要な事項については保護者会の役員会や総会に出席し、説明し理解を求めると共に要望や意見を聞いています。 ・ スーパーバイズできる主任クラスの計画的育成に関しては、市の主任昇任制度に沿って、園長として経営幹部講座など研修会への積極参加の推奨、実務面での個別指導などを通して、その育成に努めています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部環境の変化等に対応できるように、事業運営に影響のある情報は、市や区の情報のほか、保育雑誌等からもキャッチしています。また、月1回開催の区の園長会においては、保育(園)に関わる重要事項について協議し、情報交換を行い課題を共有しています。なお、事業運営に影響のある情報を分析して、保育園の効率的な運営へ向けて取り組むことについては、更に検討・推進されることが望まれます。 ・ 次代の組織運営に備え、運営やサービスプロセスの新たな取り組みとして、一時保育を12月より開始しました。また、幼保小教育連携事業のモデル園となり、小学校へのスムーズな接続が行われるように交流し、研究しています。 ・ 次代の組織運営に備えての後継者の計画的育成に関して、園長はリーダー研修などへの積極参加の推奨のほか、人事運用上の配慮や個別指導により、その育成に努めています。

利用者家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2005年11月28日～12月16日
- 2、実施方法 事業者から直接、利用者家族に配付
- 3、回収率 約32.3%（99枚配付、32枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児...1人、1歳児...6人、2歳児...8人、3歳児...4人、4歳児...5人、5歳児...6人
無回答...2人

ただし複数名が在籍の場合には下の児童のクラス。

結果の特徴

- ◇ 回収率が32.3%と低い結果になっています。
- ◇ 総合的には、満足が93.7%と大変高い評価となっています。（「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた数値。以下同様）
- ◇ 「保育園の保育目標や保育方針を知っている」という回答は34.4%です。その中で賛同できるかという問いに対しては、過半数が回答しておらず、「保育目標や保育方針に共感できる」という回答は34.4%ですので、回答者全体から見ると11%強と大変低い数字になります。
- ◇ 「遊び」「給食」については、ほとんどの質問項目で、満足が90%を超える高い評価となっています。「生活」についての満足度は80%を超えていますが、「昼寝は夜寝なくなるので短くしてほしい」、「おむつはずしについて、もう少し協力してほしい」等という意見がありました。
- ◇ 「送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明」については満足が71.9%、「保育中の怪我などの説明」については、満足が78.2%と若干低めとなっていて、「日常の小さな進歩をキャッチしてほしい」、「どんな細かいことでも報告してほしい」、「風邪気味の時、大丈夫でしたよ、という一言があると嬉しい」などと細かな情報を求める意見がありました。
- ◇ 「不満や要望を気軽に言えるかどうか」は75%が満足ですが、「あまり言ったことがない」、「何となく言いにくい」、「要望を言っても無駄だろう」、「不満を言うと子どもに影響があるかも?」、「働かねばならない親も沢山いることをもっと理解してほしい」など、意見を出しづらく思う記述がありました。

満足度の高かった点

下記については、満足100%で、お子さんは遊びについて満足しており、保育園生活を楽しんでいると保護者は高く評価しています。

- ◇ 保育内容の遊びにおいて「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動」。
- ◇ 保育内容の生活において「給食メニューの充実」。
- ◇ 保育園の快適さにおいて「保育園でのお子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気」。

満足度のやや低かった点

- ◇ 外部からの不審者侵入に対する備え、についての満足は50%と低く、「時間外に門が開いたらブザーがなるなど考えてほしい」、「園庭にも防犯カメラを付けてほしい」、「事務所に人気がないときが多々ある」などの意見がありました。
- ◇ 「アレルギーのあるお子さんや障がいのあるお子さんへの職員の配慮」の満足は62.5%と低いですが、「その他」と「無回答」が多く、やや不満は12.5%ですので、当事者以外は評価しにくかったと思われます。
- ◇ 園の目標や方針についての説明は、満足が65.6%で、「覚えていない」、「聞いていない」、「説明された覚えが無い」などの意見がありました。

利用者家族アンケート集計結果

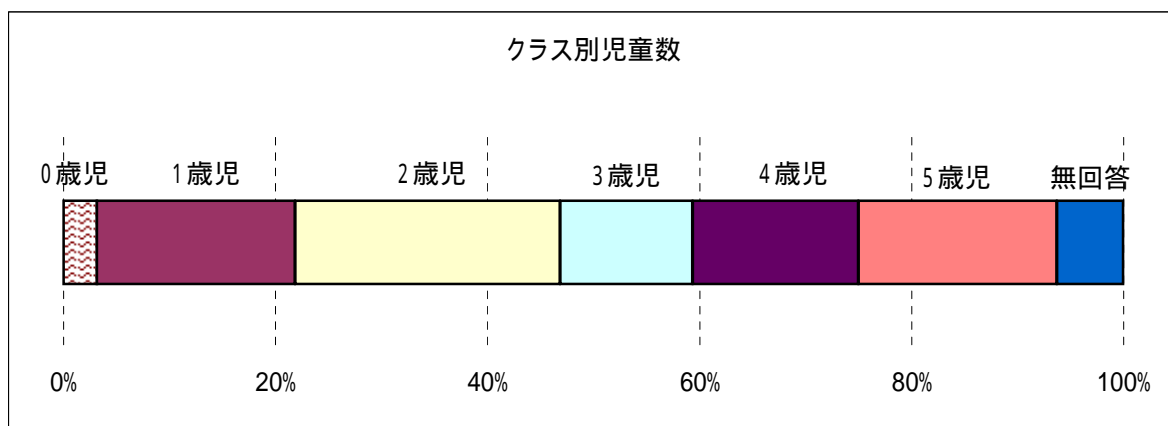
実施期間： 2005年 11月28日～12月16日

回収率： 32.3% （回収32枚 / 配付99枚）

【属性】

クラス別児童数 複数在籍の場合は、下の子どもで記入

合計	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	無回答
32	1	6	8	4	5	6	2



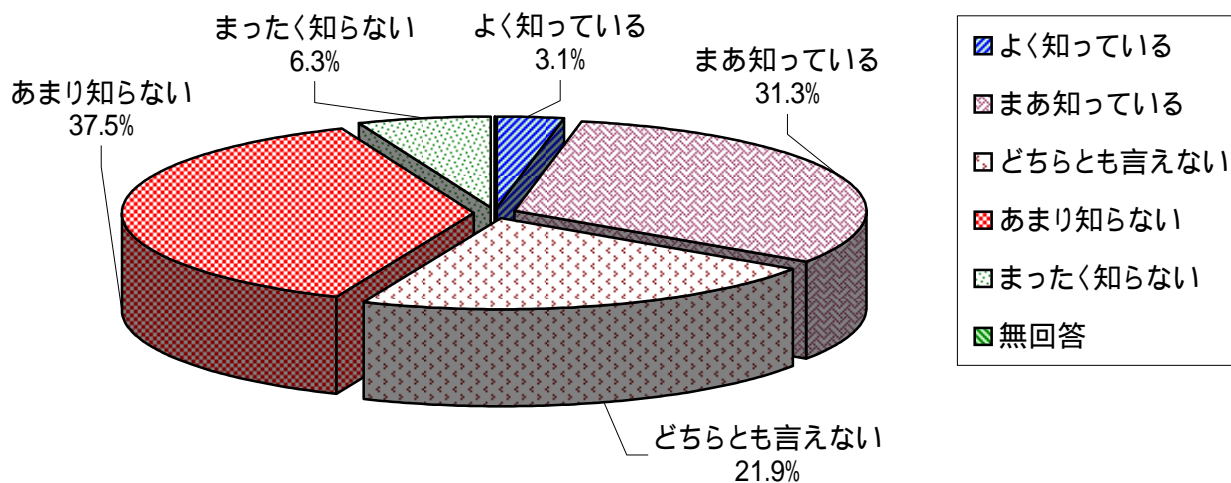
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	3.1	31.3	21.9	37.5	6.3	0.0	100

保育園の保育目標・保育方針を知っていますか



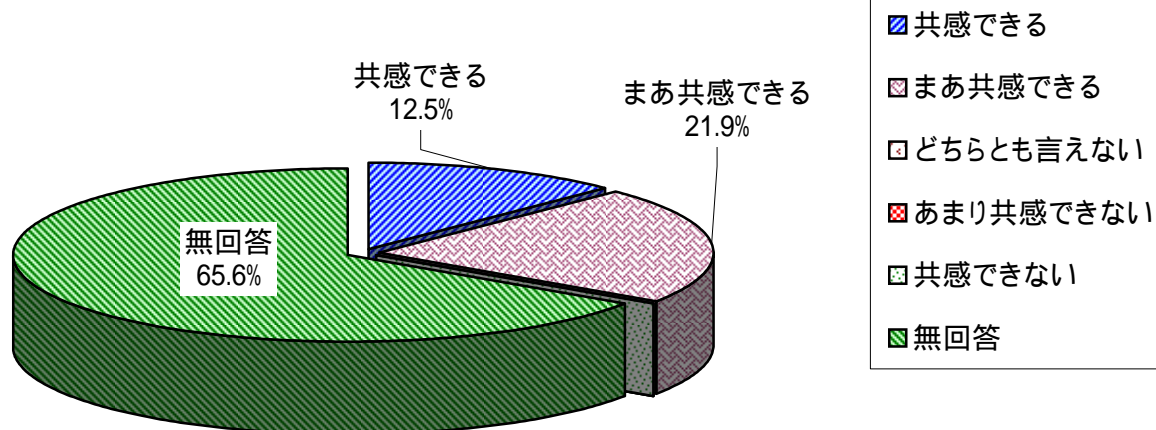
「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	共感できる	まあ共感できる	どちらとも言えない	あまり共感できない	共感できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	12.5	21.9	0.0	0.0	0.0	65.6	100

保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか



保育園のサービス内容について

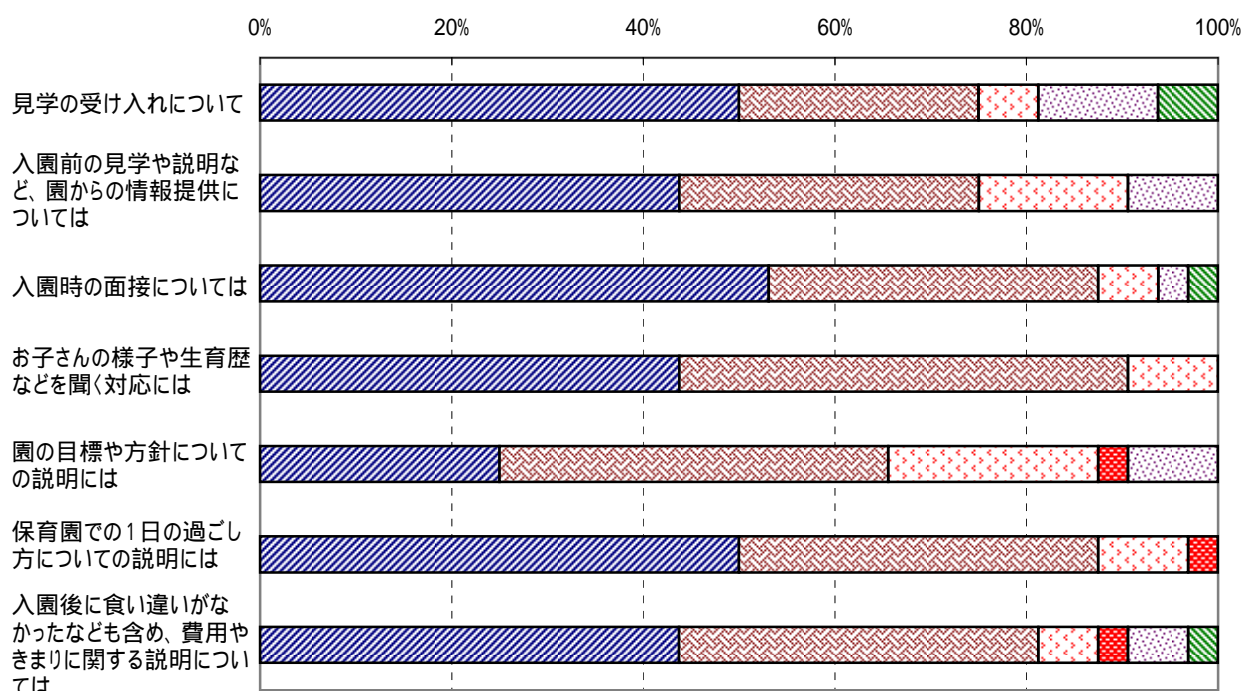
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	50.0	25.0	6.3	0.0	12.5	6.3	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	43.8	31.3	15.6	0.0	9.4	0.0	100
入園時の面接については	53.1	34.4	6.3	0.0	3.1	3.1	100
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	43.8	46.9	9.4	0.0	0.0	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	25.0	40.6	21.9	3.1	9.4	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	50.0	37.5	9.4	3.1	0.0	0.0	100
入園後に食い違いがなかったなども含め、費用やきまりに関する説明については	43.8	37.5	6.3	3.1	6.3	3.1	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



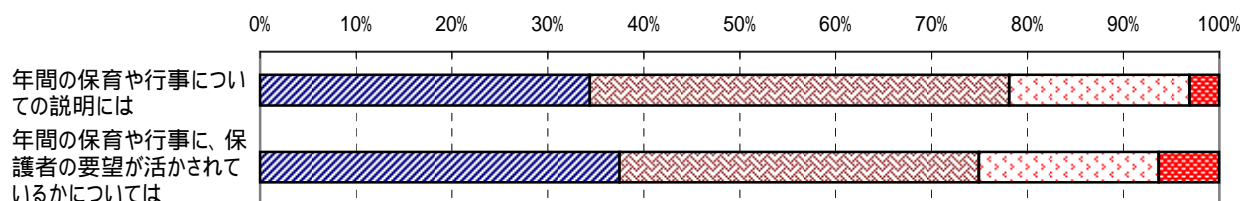
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	34.4	43.8	18.8	3.1	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	37.5	37.5	18.8	6.3	0.0	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

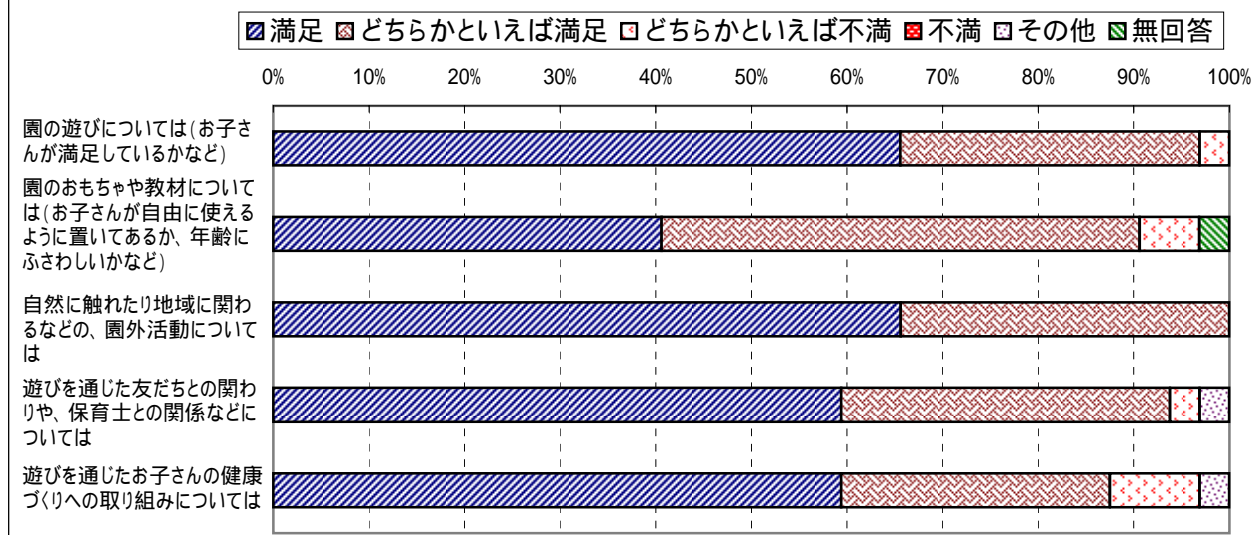


問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園の遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	65.6	31.3	3.1	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	40.6	50.0	6.3	0.0	0.0	3.1	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	65.6	34.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	59.4	34.4	3.1	0.0	3.1	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	59.4	28.1	9.4	0.0	3.1	0.0	100

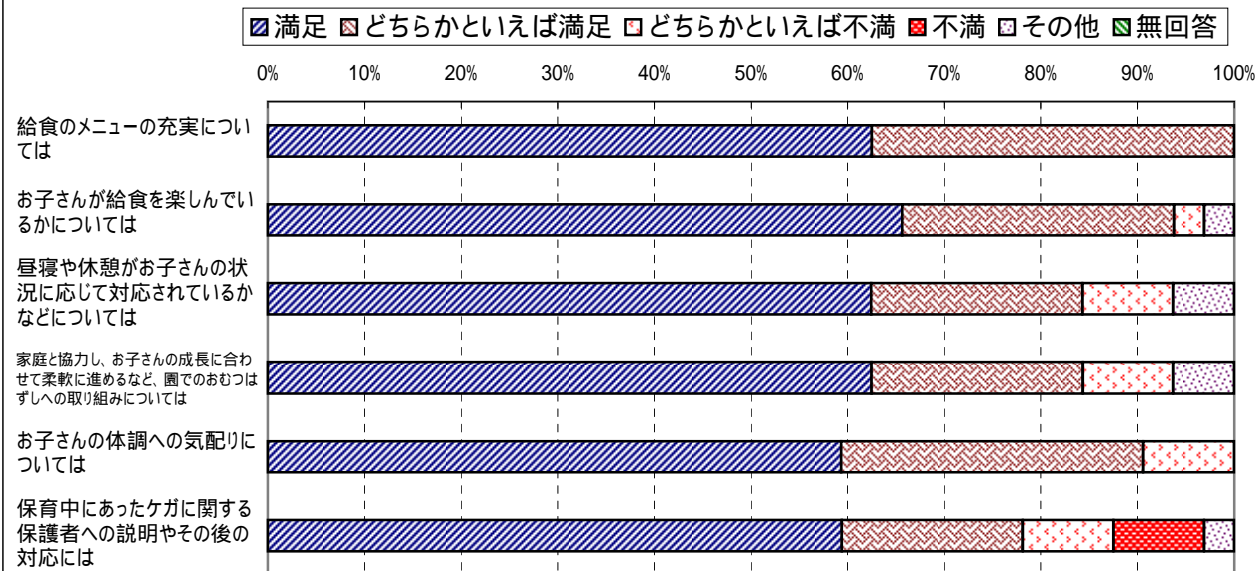
日常の保育内容「遊び」について



(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食のメニューの充実については	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	65.6	28.1	3.1	0.0	3.1	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	62.5	21.9	9.4	0.0	6.3	0.0	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	62.5	21.9	9.4	0.0	6.3	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	59.4	31.3	9.4	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	59.4	18.8	9.4	9.4	3.1	0.0	100

日常の保育内容「生活」について



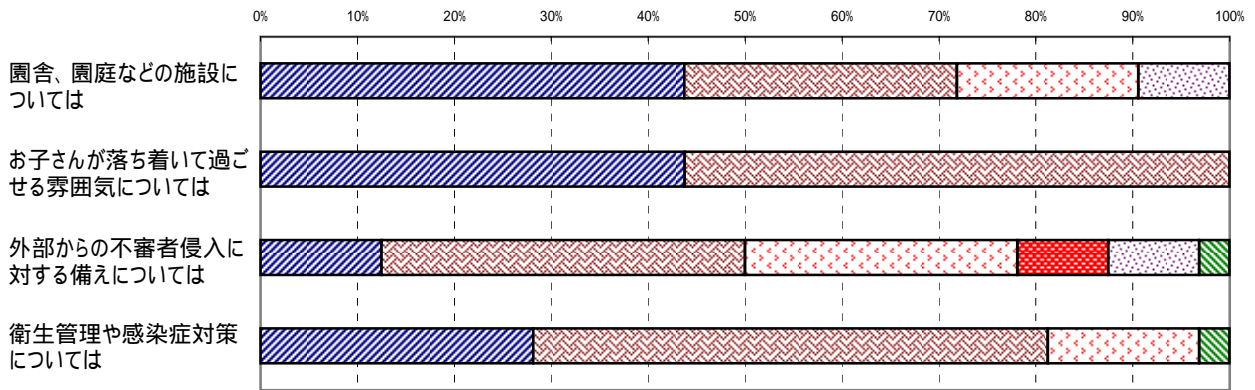
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園舎、園庭などの施設については	43.8	28.1	18.8	0.0	9.4	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	43.8	56.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	12.5	37.5	28.1	9.4	9.4	3.1	100
衛生管理や感染症対策については	28.1	53.1	15.6	0.0	0.0	3.1	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



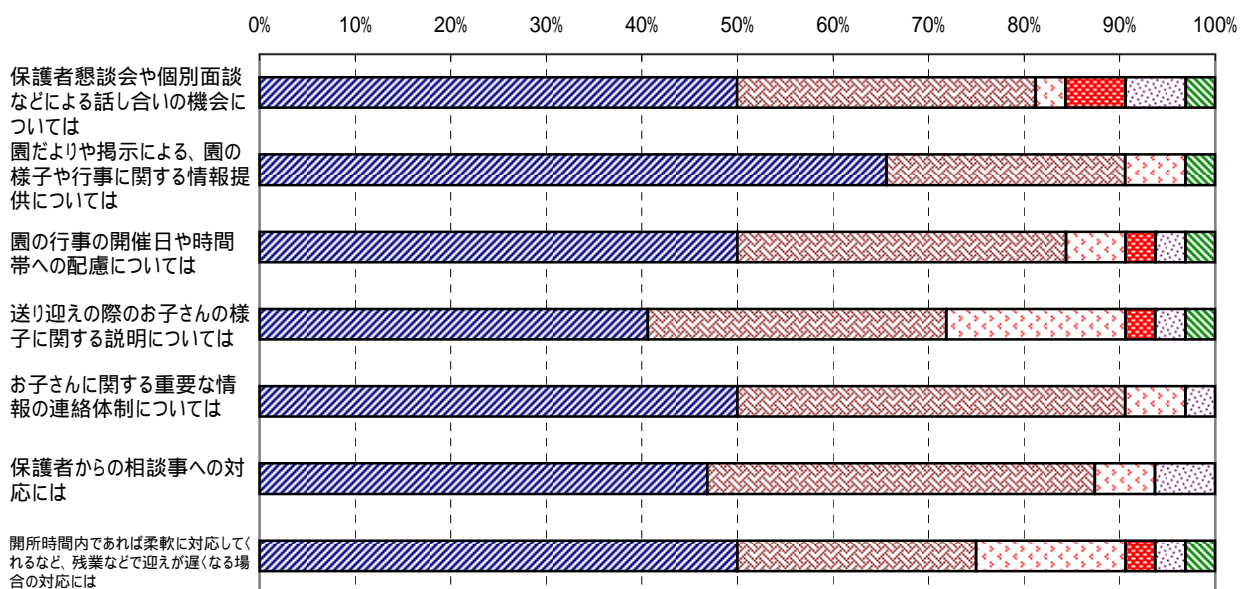
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	50.0	31.3	3.1	6.3	6.3	3.1	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	65.6	25.0	6.3	0.0	0.0	3.1	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	50.0	34.4	6.3	3.1	3.1	3.1	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	40.6	31.3	18.8	3.1	3.1	3.1	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	50.0	40.6	6.3	0.0	3.1	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	46.9	40.6	6.3	0.0	6.3	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	50.0	25.0	15.6	3.1	3.1	3.1	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

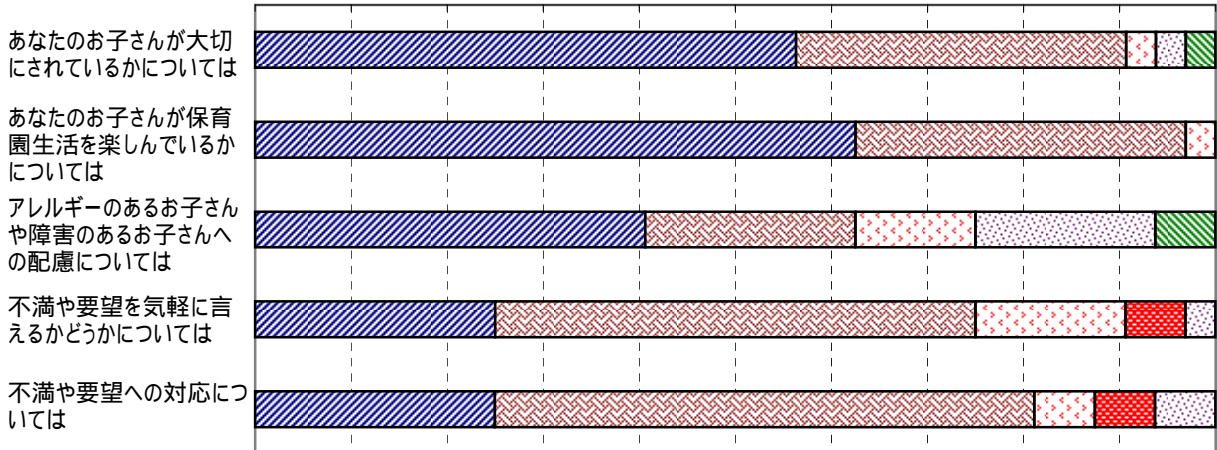
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	56.3	34.4	3.1	0.0	3.1	3.1	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	62.5	34.4	3.1	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	40.6	21.9	12.5	0.0	18.8	6.3	100
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	25.0	50.0	15.6	6.3	3.1	0.0	100
不満や要望への対応については	25.0	56.3	6.3	6.3	6.3	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

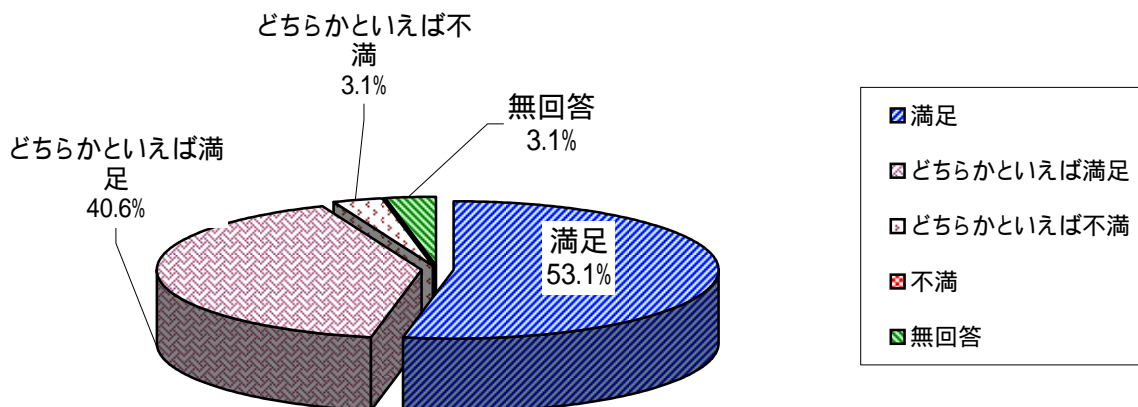


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	53.1	40.6	3.1	0.0	3.1	100

総合満足度



利用者本人調査 分析

観察調査 1月30日(月)9:30~15:40 1月31日(火)8:00~13:00

聞き取り調査 1月30日(月)15:30~16:30 5歳児クラス計19名を4グループに分け、ホールで実施

1. 遊びについて

観察調査

- ・ 乳児クラスでは登園直後は、おもちゃをいじったり保育士のそばにまとわりついたりしていますが、時間と共に動きのある遊びになり、そのうちベッドに階段やスロープを組み合わせた簡易遊具が出来る、上ったり滑ったりとさらに活発になります。一通り満足すると今度は子どもがCDを指さし音楽をかけてもらい、次はカニのお面やぼんぼんを取ってもらい音楽に合わせて身体を動かします。当日は寒かったので、身体が温まったところで園庭に出て遊んでいました。
- ・ 幼児クラスでは、朝はおもちゃ、絵本、創作など思い思いに過ごし、園児が揃ってから、朝の会があり、ふざけあつたりもしますが、きちんと座り比較的静かに保育士のお話を聞いています。
- ・ 園庭では、年齢の違う子も混じり合い自由に元気よく遊んでいます。年齢の高い子は縄跳びなどを得意そうに見せたり、小さな子も「きりんさん(5歳児)、これやって」と頼りにしている場面もありました。
- ・ 滑り台の階段には安全のためタイヤをはめてあり、子どもは保育士を呼んで外してもらい保育士に見守られて遊びます。倉庫にある縄跳びやフラフープなどは、保育士に断って出されてきて、外遊びの時間が終わると保育士に「お片づけして」と促され、それぞれ元の位置に戻しています。

聞き取り調査

- ・ 子どもたちが好きな室内での遊びはブロック、お絵かき、あやとりなどを挙げていました。あやとりはケアプラザ訪問の際お年寄りから教わったそうです。
- ・ 元気な子が多く、好きな遊びは鉄棒、ブランコ、滑り台、戦いごっこ、縄跳びなど沢山の外遊びの名前が出てきました。中でもドッチボールは並木地域の3保育園合同大会に向け、小学生から指導を受けたり、保育参観では保護者とゲームをして、練習に励んでいるためほとんどの子どもが好きな遊びに挙げています。

2. 食事について

観察調査

- ・ 食事やおやつの前にはどのクラスでも、椅子に座って本などを見ながら静かに待っています。
- ・ テーブルに花を飾り保育士がエプロンをするほか、子どもたちもお当番さんが、4歳児はエプロンをつけ5歳児は白衣を着て、配膳のお手伝いや「どうぞ、召し上がれ」の挨拶掛けをします。
- ・ 幼児クラスは食事の前にペープサートやパネルシアターを使い、当日の給食を4つの色にわけ、保育士が「ほうれん草はどこ？」と聞くと「みどり〜」、「五目豆の豆は?」「あか〜」と元気よく答えます。
- ・ 嫌いなものは減らしてもらい、保育士に「頑張ってるね」と声を掛けられて食べています。食事は楽しそうにお話しをしながら食べていますが、3・4歳児は行儀への注意もされていました。多くの子は競って食べていましたが、のんびりした子は自分のペースで食べ、最後には食べきっていました。
- ・ 食後は、自分で食器の片づけをします。歯磨きのあとパジャマに着替え、乳児もエプロンを自分のマークの袋にしまっています。

聞き取り調査

- ・ 保育園の食事の一番人気は圧倒的にカレーでした。その他にはうどん、おみそ汁、お肉、お魚、野菜などいろいろと挙げて、食べることを楽しんでいる様子が伺えました。
- ・ おかわりは自由ですが、嫌いな物は先生に減らしてもらって少しは食べるようにしているそうです。

3. 排泄について

観察調査

- ・ 2歳児クラスの一部と3歳児以上のクラスの子どもたちは、先生に言って自分でトイレを済ませています。
- ・ 0歳児は、保育士が一人ひとりに声掛けしてから確認しオムツ替えをしています。

聞き取り調査

- ・ トイレは行きたいときには先生に断って自分で行き、困ったときには先生に手伝ってもらおうそうです。
- ・ お漏らしをしたときは箆の着替えを出して自分で取り替えています。小さいときは先生にやってもらったそうです。

4. 清潔・健康について

観察調査

- ・ 外遊びの後は、乳児クラスはズボンを脱いで、たらいの水で足を洗い、洗面器の水で手を洗ってから入室します。幼児クラスは流しで手洗いとうがいを行います。
- ・ 0歳児クラスでは、お昼寝の際15分ごとに呼吸確認を行います。寝ているときは「○」、寝付けないときは「✓」を呼吸チェック表に記入し、SIDS（乳幼児突然死症候群）の予防をしています。

聞き取り調査

- ・ 汗や泥んこで汚れたときはシャワーを浴びたり、タオルで拭いてから自分で着替え、出来ないときは先生にしてもらおうそうです。
- ・ 病気のときはお母さんに連絡をしてくれるので、お迎えが来るまで寝て待っているそうです。小さな怪我は絆創膏を貼ってもらい、大きな怪我の時は先生が病院へ連れて行ってくれるそうです。

5. いやな思いへの対応や権利を守ることについて

観察調査

- ・ 観察中には、大きなけんかなどは見かけませんでしたが、玩具の取り合いの場合は保育士が間に入り働きかけ、まれに緊急に大きな声で止めることはありましたが、どうしたのかを聞き、静かに話して聞かせていました。
- ・ 午睡は5歳児もパジャマに着替えて布団に入りますが、寝付けない子は別の保育室で自由に過ごします。

聞き取り調査

- ・ 友だちとけんかをした時には先生に言って叱ってもらったり、友だちが助けてくれるそうです。先生は、「口げんかは自分で解決しなさい」ということもあるそうです。
- ・ 昼寝時間が終わると、殆んど直ぐに起きて静かに別の部屋に行き本を読んだり遊ぶとのこと。
- ・ 名前は通常“ちゃん”付けで呼ばれています。

6. 職員について

観察調査

- ・ 朝は福祉員が園庭の掃除をしながら、登園する親子に声を掛け、挨拶だけでなく会話を交わしています。
- ・ 保育士は専門職員として、子どもの様子・状態を見極め、いつもやさしく声掛けしながら、手馴れた様子で保育にあたっていました。

聞き取り調査

- ・ 担任の先生は優しいけれど怒ると怖い、と意見が一致していました。
- ・ 担任の先生以外でも声を掛けたり遊んでくれ、福祉員や退職した先生も好きな先生に挙げていました。
- ・ 園長先生と遊んだことはないけれど、ドッチボールは一緒にしたことがあり、強いそうです。

まとめ

子どもたちは元気で伸び伸びと過ごしています。登園時には自分の持ち物を所定の場所に置いたり、後片付けや着替えも一人で出来るなど、しつけもしっかり行われ、食事の際は、年齢に応じたお当番の仕事や挨拶がきちんと出来、社会性も身につけています。

観察に入った評価調査員にも直ぐに親しみを持って近づいてくる様子から、日ごろから大切にされ可愛がられている様子が伺われ、子どもの自主性や発想を大切に保育が行われていると思われそうです。

事業者意見

この度の第三者評価受審については、職員の間で「評価される」ということに対する抵抗感が強かったのですが、話し合ううちに、「保育を高めていくことにつながる第三者評価」と捉えることができ、受けることを決定したのです。

一番時間をかけたのは自己評価でした。評価項目一つひとつ討議する中で、今まで何気なく実施してきたことが形になって見えてきましたし、できていなかったことは、みんなで力を合わせて取り組みました。保育園全体を様々な角度から見ることができ、職員全員で保育を振り返ることができたのは大きな収穫でした。

高く評価できる点として、「元気一杯、心身ともに健やかに育まれる子どもたち」を挙げていただいたことが嬉しく思います。これからも、子どもたちが生き生きと健やかに成長できる、子どもたちのための楽しい保育園でありたいと思います。

改善や工夫が望まれる点として、保護者との関係作りを指摘していただきました。保護者アンケート結果から、保護者の意向をまだまだ十分に汲み取れていないことが判りましたし、保育園からの情報発信の方法がまだ不十分であったことも実感しました。どうしたら保護者とともに保育を作り上げていくことができるか、大きな課題として受け止めました。

評価が出て、これからがスタートです。

今回、みんなで同じ目標に向かって進むことがなんと大きな力になるのかということを実感しましたし、充実感がありました。これからも力を合わせて保育をしていきたいと思います。また、市民セクターよこはまの評価調査員が、評価を通して保育園を後押ししてくれたと思っています。ありがとうございました。

平成 18 年 3 月 31 日 横浜市 並木保育園